

知的生産の技術 030106 林先生のお話を聞いての感想

タイプ

1

こんな授業が幼い頃から続ければ、人との関わり方が上手になることはもちろん、いかに自分が良いと思ったことを人に伝えようかと考えたりすることで、「頭の柔らかい人間」が沢山社会へと出て行けるようになりますね。

宮城大学にはあまり無いタイプの先生だと思いました。前衛的でいながら、基本をおろそかにしない、とても素敵な人だと思いました。

タイプ 3

知識というのは自分でつくっていくものという言葉が印象的だった。

自分も今どきの大学生なのだと実感した。どうしても林先生の言うところの「参集」でしか学ぶ機会が無かったもので、グループ学習・ディスカッションなどといわれてもなかなか腰があがりません。林先生のお話は楽しかったです。またの機会があれば是非。

タイプ

4

「参画とは場作りです」という言葉が印象的だった。というよりも考えさせられた。今まで受けてきた授業はただ参加していただけなんだなと思った。そういえば、今度、自分たちで授業をするという講義がある。それが参画なのかなあ？

「参画」というやり方が興味深かった。これを早い時点(小学校など)で実践していたら、今までとは違う社会ができるのでは・・・。

「教える」ということを小・中・高のどれか一つでも教えれば、より賢い人間が出てくるような気がする。

今日の講義を受けて、今までの授業に足りなかったものが明確になり、どうしても「学ぶ」ことができなかったのだろうと残念に思った。これからの大学生活は後悔しないよう過ごそうと思う。

自分の「知」についてはあまり考えてみたことがなかった。これからは参集ではなく、参画を心掛けていきたいと思う。そうすることでこの大学を変えていくことも可能と思う。

今、「男女参画社会」という言葉が多く取り上げられている。参画というのは自分1人だけが学ぶのではなく、お互いの関係を深め合い、全体で学んでいくことなのだと分かった。

「参画型」の学び方は創造的に問題解決ができそうでぜひ覚えていきたい、というか常に意識しておきたい。幼い頃から教育プログラムの中で図解やKJ法を教えてもおもしろいと思う。

タイプ

2

正直、始めお正月明け1番の講義でありやる気が起きませんでした。でも、林先生の講義を受けて、自分の姿勢を改めなければならぬと痛感した。今回の講義で参画の重要性が分かったので、自分の講義の受け方を改めるとともに、私はアルバイトで塾講師をしているので、授業の組み立てを考えなおそうと思った。これからいろいろな立場・いろいろな世代の人々と学びあっていきたいです。

私はアルバイトで家庭教師をやっています。その中で、教えることの難しさを知りましたが、教えることによって、自分がいまいた部分も分かりました。看護の授業でも、知識をそのまま投げ込まれるんじゃなくて、こういうグループワークがあったらいいと思いました。

どの世界にでも学び合うことは大事ななあとき常々実感していたが、今日の林先生のお話でどうしてそう感じていたのか理由が分かった。教えるということが自分の受けた教育の中では教わらなかったことであったし、社会に出て、「教える」ということを学ぶことの必要性を痛感していたからであると思う。未来への解決の糸口になる考え方がきくことができ、とてもよかった。

確かに、今の大学はただの単位とり合戦のようになっている気がする。林先生のおっしゃるとおり、それには学ぶ側だけではなく、教える側にも問題があると思う。教えることによって、学ぶということを知らないのだからというものも同感できる。今、私は高校の部活のコーチをさせてもらっているが、1年前、学ぶ側だった自分が教える側にまわったことで新たな知識を得られた気がする。やはり、教えることによって学ぶもの、得るものもあるのだと思う。とてもききやすい授業でした。ありがとうございました。

教えられることばかりしてきた自分だということを再認識した。家庭教師をしているが、教えることの難しさを感じることもある。これからは教えられるだけでなく、教えることまで考えて学習していきたい。

知的生産の技術 030106 林先生のお話を聞いての感想

タイプ
4

教育については関心がある。それは自分が教職にあこがれているということもあるし、今の大学の授業について疑問を持っているからかもしれない。

今、最も興味がある知識(ナレッジ)&マネジメントで刺激になった。参与と参画に具体事例があったらマネしてみたい。

今までずっと続いてきた事の根本を変えることは難しい。しかしそこを変えることができたら日本は変わると思う。

授業はつまらないのではなく、自分たちがつまらなくしているのだと思った。今まで自分や他人や環境が変わることを何となく恐れてきたように感じる。これからは、積極的にいろんな物事と関わって「変わる」ことを楽しんでいけるようになりたい。

刺激を受ける講義でした。「参画」というキーワードをもとに日本の教育についての講義で考えることが多いものでした。集団で学んだり作業することにより個人では限界のことも可能になり成果をあげているということを知りました。「知」を発展させ、「創る」とまでたどり着けるようにしたいです。自分史をつくることにより、今日の講義を生かしたいです。

今日は新しい授業形態を知ることができました。年をとるごとに自分から何かしようという意欲が消えていることを悲しく思うし、年をとることこそもっと前に出て、自分の意見を話さなくてはいいけないと思った。

以前、KJ法をやったことがあるが、煮詰まって、とても辛かったのを覚えている。しかし、授業で紹介された実際にやっている場面ではカラフルで楽しそうに見えた。その違いは何なのだろう...と思った。学び合う姿勢は仕事をしていく上でも必要だと思った。

タイプ
6

大学には、夢を実現したりキャリアを積むためにきているはずなのに、なぜか眠いです。自分がダメだからでしょうか。

タイプ
5

今まで、自分が受けていた授業がどれだけ一方的だったのか思い知らされた。

色々と積極的に参画することが大切だと実感した。

総合的な学習を受けて育つ子供たちが本当に「主体的に参画する日本人」になれるのか楽しみだ。ユニバーサルデザインの理想は創造する学びだとおっしゃったが、私が今の大学で学んでいる状況とはかなり違うなあと思った。

可能性の話、一般の話からプランの話やそこのデメリットのシューティングの話まで進んで欲しかった。構図を見ればやはり先も見える。

とても興味深いお話でした。普段は教育について学ぶ機会がないので、新鮮でした。集団レベルや組織レベルで学ぶことがいかに重用で役立つかが分かりました。これから、学び方を変えて、知識をより多く得たいです。

集団レベルの知・組織レベルの知のお話が興味深かった。表面だけの知よりも、もっと深い知を求めたい。

教えることは学ぶことだということに共感した。私は現在、家庭教師のアルバイトをしているが、教えることによって、自分の頭の中で知識が整理されているように思える。

とても興味深い講義だった。僕が国家や社会という言葉に偏見を持っているのかもしれないが、教育で国家・社会の形成者として国民を育成するということを意識することの必要性がいまいち分からなかった。でも、参画型の授業の良さはよく分かった。

知的生産の技術 030106 林先生のお話を聞いての感想

タイプ
7

今まで与えられたものをただこなしていただけで、「学び」について考えたことがなかった。今日の授業を聞いて、「学び」で得た「知識」は「教える」ことでより認識できることが分かった。そして、知識を創るといふことも、大切だと分かった。「教育」の話も印象的で、考えさせられた。

今日の講義はとても刺激になりました。林先生のような方がもっともっと今の日本の教育には必要だと切に感じます。先生のような考え方の教師に今まで出会えなかった自分がとても不幸に思いました。機会があればぜひ、またお話を聞かせて下さい。

参加よりも参画が大切であることが明確になりました。学校の授業が楽しく、興味をひかれる授業に少しずつ変わっていく希望がもてました。

自分がこれまでのNPO活動の中で目指した方向はまさに参画型の運営でした。とてもまとめ方と図の作り方が上手で(大学の先生に対して失礼ですが)さらに情熱的なお話だったので、学生たちに(私も含め)とてもいい刺激だったと思います。これからも場の仕掛け人としてワザを磨いていきたいと思いました。

教えること「学び」であるという言葉が印象的だ。この言葉は小学校の先生も言っていたことで「人に教えられにくい」になったとき初めて自分が「学んだと分かる」という言葉を思い出した。

林先生のような考えの方がいらっしゃって安心しました。知は自分の中で眠らせていては本当にもったいない。もっと外へ発信していこうと思った。

もっと積極的に参画していくことができるように自分自身努力していきたいと思いました。

タイプ
8

国や社会は誰かが作ってくれるものと言う意識が強い」という言葉が、その通りだと思いました。今回の話を聞いて、他人に頼るのでなく、自分で何かをすることのできる人間になりたいと思いました。

自分の学びたいことは何も大学だけから得るものではないと気付かされたので、今後は自分の手や足で知識をつかみたい。

林先生のお話を聞いて、教育のあり方、知識のあり方を聞いて、すごく共感しました。しかしそれと同時になぜ今教育が良くなかったかといいつつ、戦後約60年教育方針が変わらなかったのか?今の中学生は新しい授業を受けられることができるが、私たちのような者達は今さら小学校からやり直すことができない。とても残念だと思うが、それで終わるのではなく、自分史をつくる上で考えてみたい。

タイプ
9

興味深い話だった。

学校の授業は、先生だけでなく生徒も一緒に作る」といお話が前回の野田先生のお話と通ずるものがあると思いました。今後、今までの教育が変わっていくことを願います。

考えるということが学習の最終段階だという考えにとっても納得した。

参画や参加という意味がとても深いものであると思いました。生徒と教師が授業や講義を作っていくものという話を聴いて、その方式は欧米の構成構に当てはまるものではないかと思いました。日本は均一を求め、このままでは何も生まれてこないものであると実感しました。そのような風潮のある社会を少しずつ変えていく必要があると思います。

「参画」という言葉が印象的だった。自分で積極的に行動するという意識がうすくなっているということに今日、改めて気付かされました。

今の学校教育がこれから少しでも変わっていきたく思う。

教育について、自分にとって身近な問題だったにもかかわらず、あまり考えたことがなかなかなかったので、今回改めて考えさせられ、現在も将来的にも非常に重要だと感じました。

自分の意見を言うのは大変苦手である。他人に否定されていそうで、憶痛になってしまう。

参加を3つに分けていたのがとても面白かった。確かに今の社会は参集がただが、参画にするのはとても時間かかるだろうし、難しいと思う。

大変インパクトのある話で興味深く聞かせていただきました。「創造」というよりも改善、完成させることの方が重要なのではないかと考えました。どうもありがとうございました。

確かに今まで受身の体制で自分が参画していくということにはなかつたように思う。このままだとつまらない、やりたくないと思うので、自分自身何か変わらないといけけないのではないかと思います。

参加を3段階に分けるなど、なるほどと思うことが多々あり、興味深かったです。ただ、受動的な授業を受け続け、それが普通となっているせいか、能動的や創造的な学びにはかなり抵抗があります。

知的生産の技術 030106 林先生のお話を聞いての感想

タイプ 9

今日の林先生の話聞き、教育についての考え方、学び方が変わるような気がします。

学びの手段の「改造」が必要であると思った。

確かに私達が今まで受けてきた授業や現在も受けている授業の中には受身にならざるを得ない授業が多い。自分の経験が加わり、様々な人と出会い、1人だけでなく、何人かと学びを深めていくと、楽しかったし、どこまでも学んでいけると思った。

参画することに意義があるのだと思いました。

人生は「学ばない時」というものはないと思うので、教え上手になれるような学び方をしていきたいと思いました。

私は今、バイトで生徒に勉強を教えているのですが、なかなか上手に教えられません。それは与えてもらった知識を活用していないからではないか、と今日の林先生のお話を聞いて思った。これからはしっかりと知識を生かして教えていきたい。

積極的に多くの人と学び合う習慣はほとんどないので、今からすぐに実行することは難しいですが、少しがんばって見たいと思います。多くの人と関わっていく中で、様々な視点で自分の考えをたくさん持てるようになる気がします。

「教えることは学ぶことの1つ」という言葉に同感しました。参画モードの授業に興味がありました。将来この形の授業が普及出来れば良いと思いました。

自分の知識と他人の知識を互いに伝えることで、こっと豊かな知識を身につけることができるとし、学びあうことができると思う。

何かに参加しようという気持ちだけは持てるようになりましたが、自分から実際に動いて、その場を作るまでには至っていません。今後は、自分から動けるように努力したいと思います。

今までの生活を振り替えてみて、自分はほとんどの講義で「参集モード」だったことを恥ずかしく思った。本当に大学で深い教養を得るにはこのままではいけないと思う。今日の講義で行ったラベルワークは第2・3段階にスキルアップするためのきっかけに過ぎないと思う。私達はもっと互いに学び合う必要があるということを強く印象付けられた。

教えることは学ぶ1つの方法だということを知り、とても印象的だった。人に教えるということは、自分の中での知識がしっかりしていないとできないし、様々な表現方法を学ぶ良い機会となると思った。

ただその場にいるのと、参画するのでは学びが決定的に違う。このことを意識して行動するとより多くを得られるのではないか。

これからは自分たち(生徒)が積極的に授業に参画して行かなければ行けないんだと分かった。また、自分の知識を誰かに教えることで新たな知識を得ることができると知った。

その他

受身の授業では何も生まれない。少しずつ「参画」してみようと思いました。

大学に入ってみて、自分自身で行動することの重要性を知ったが、この時点から新しい自分にしていくことは本当に難しい。

ラベル用いて、他者と意見を交わいあわすということに、誰にでも交流というものが持つようになっていくのだと感じた。

「知」について改めて考えられた。今の自分は受動的に教わるが多いと思う。先生とも学生同士でも、みんなで知を分け合って学び合うことは大切だし、自分にとってプラスになることがいっぱいあると思う。

大学に入ってからはじめて知った、日本に足りないもの、自分に足りないもの、参画理論が言うように、お互いが創造的に学び合う教育・環境・システムも必要であり、自分を提示していける人になりたいと思った。

学びの3重円モデルのお話のとき、学校では人から「学ぶ」ということは教わるが、人に「教える」ということは教わっていないと聞いたときに、確かに林先生の言うとおりでであると思いました。人に教える「伝える技術」に乏しい人間はこれからの社会では生きていけないように思い、これからの生活の中で人に教えることができる知識を自分なりに確立していきたいと考えています。